

秦野市健康増進計画（第4期）の推進に関する検討委員会
 評価シート

重点施策	重点施策の指標			目標値	基準年度 (H29年度)	現状値 (R5年度)	目標達成率 (%)※1	指標 評価	自己 評価	全体 評価	評価理由
Ⅰ-1 健康を支援するコミュニティの実現	健康に気を付けている人の増加（20～64歳）			85%	82.2%	—	—	—	B		地域での活動は従来に戻っており、以前の参加者が戻りつつある。一方で感染症を機に地域で活動する団体の解散や縮小があり、事業の見直しが必要なケースが発生している。
	地域活動参加の割合の増加（65歳）			80%	63.0%	—	—	—			
Ⅱ-1 栄養・食生活	朝食を週4日以上食べる人の割合（朝食欠食率の減少）（40～59歳）			85%	82.4%	79.50%	93.5%	△	B		食事・栄養に関する講座について、一部で調理実習を再開した。調理実習の再開に至っていない講座においても、ボランティアの協力のもと、調理のデモンストラーションを行うなど、講座の形式を見直し、実施している。
	主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加（毎食）			55%	51.6%	—	—	—			
	野菜を毎食食べる人の増加			45%	38.5%	—	—	—			
	適正体重を維持する人の割合（BMI18.5～25未満の者の増加）（40～74歳）	男性	71%	69.4%	66.40%	93.5%	△				
		女性	72%	69.9%	68.30%	94.9%	△				
Ⅱ-2 身体活動・運動	日常生活において1時間以上歩行と同等の活動を行っている人の割合（40～74歳）	40～64歳	男性	54%	48.8%	47.80%	88.5%	△	B		スポーツ推進課が開催するイベント規模が、感染症以前の規模に戻っており、身体活動・スポーツに取り組む環境が提供できるようになったことから参加者数が増加した。高齢者を対象とした一般介護予防事業についても、参加者が増加傾向だが、今後はさらに住み慣れた地域で体を動かすことができる通いの場の拡充を目指す。 春風ウォークは、感染症流行以前では参加者がはだの桜道を歩くイベントとして開催し、感染症流行以降はウォーキングマップの配布を行っていたが、R5年度は健康増進に関する連携協定を締結している保険会社のアプリを使用し、ウォーキングを促す方法に変更して実施した。
		65～74歳	女性	56%	51.6%	47.70%	85.2%	△			
		40～64歳	男性	62%	57.5%	53.10%	85.6%	△			
		65～74歳	女性	58%	53.1%	55.50%	95.7%	○			
	運動習慣がある人の割合	40～64歳	男性	40%	35.4%	35.40%	88.5%	○			
		65～74歳	女性	38%	33.5%	31.40%	82.6%	△			
		40～64歳	男性	60%	56.5%	48.20%	80.3%	△			
		65～74歳	女性	55%	50.1%	50.00%	90.9%	△			
Ⅱ-3 こころの健康・休養	ゲートキーパー（自分と人の状態に気付ける人）の増加			1,000人	633人	2,089人	208.9%	◎	A		関係各課において、世代に合わせた自殺対策を実施しており、切れ目のない支援を実施することができている。自殺の背景には、様々な要因があり、支援には個性が必要であることから、今後ますます多岐にわたる支援が求められる。
	ストレスに対処できる人の増加			55%	50.0%	65.0%	118.2%	◎			
	睡眠で休養が十分にとれていると感じる人の増加			80%	77%	76.6%	95.8%	△			
Ⅱ-4 喫煙	非喫煙者の増加	男性	82%	79.60%	80.3%	97.9%	○	B		喫煙防止教育は、これまで使用していた資料を一新し、小中学生でもわかりやすい内容を取り入れるように工夫を行った。様々な依存症に対応した講座を展開。普及啓発方法の変更。全体の評価指標である1歳半検診時の父母の非喫煙者の増加については、父は目標値を上回っているが、母は目標値を下回る状況。引き続き、妊娠～出産～子育ての支援を行う中で、禁煙の重要性について説明する。	
		女性	96%	94.80%	94.5%	98.4%	△				
	市内小中学校での喫煙防止教育回数の増加			22校	3校	3校	13.6%				△
	1歳6か月児健診時の父と母の非喫煙者の増加	父親	70%	65.20%	71.6%	102.3%	◎				
		母親	95%	94%	93.6%	98.5%	△				

重点施策	重点施策の指標	目標値	基準年度	現状値	目標達成率	指標評価	自己評価	全体評価	評価理由
			(H29年度)	(R5年度)	(%)※1				
Ⅱ - 5 歯・口腔	3歳6か月児歯科検診におけるむし歯がない幼児の増加	86%	85.50%	91.1%	105.9%	◎	B		妊婦歯科健診、節目年齢に実施している歯周疾患検診について、周知方法の変更や個別受診勧奨を活用し、受診率向上。介護予防では、通いの場での口腔ケアの啓発や、ハイリスク者に対して、個別支援を実施。今後はオーラルフレイルからの要介護状態への移行を予防するため、地域高齢者支援センターとも連携して支援の充実を図る。
	年に1度以上、歯科検診を受けている人の増加	45%	33.90%	—	—	—			
	口腔内のセルフケアをしている人の増加 (補助的清掃用具使用についての普及啓発)	65.00%	54.10%	—	—	—			
	80歳（75～84歳）で20本以上自分の歯を有する人の増加	50.00%	38.10%	—	—	—			
Ⅱ - 6 感染症	感染症に関する注意報、警報等の情報提供	100%	100%	100.0%	100.0%	◎	A		様々な感染症について、市の情報発信ツールを用いて情報発信を行った。ワクチン接種について、適切な情報提供に努めていく。
	高齢者インフルエンザ予防接種の接種率の向上	48%	43.20%	48.7%	101.5%	◎			
	新型インフルエンザ等対応訓練の実施	年1回	年1回	—	—	—			
Ⅲ - 1 がん	子宮頸がん（20～69歳）検診受診率の向上	50%	12.60%	9.4%	18.8%	△	B		イベント等における普及啓発の機会が増加したことから、普及啓発事業の実績値は向上。市で実施するがん検診の受診率は概ね横ばい。子宮頸がん及び乳がん検診については、無料クーポンを送付しており、個別利用勧奨を実施した効果により、特に乳がん無料クーポンの利用率が顕著に向上。
	乳がん（40～69歳）検診受診率の向上	50%	17.80%	15.9%	31.8%	△			
	大腸がん（40～69歳）検診受診率の向上	50%	8.10%	5.6%	11.2%	△			
	精密検査受診率（大腸）の向上	90%	70.80% (H28年度)	82.40% (R3年度)	91.6%	○			
Ⅲ - 2 生活習慣病	特定健康診査受診率の向上	40%	33.80%	33.20% (R4年度)	83.0%	△	B		未受診者への電話やはがきによる勧奨を実施し、健診受診率全体としては約3%の受診率向上。また、受診環境の整備として、土日・2回集団健診会場を設けた。その他健康ポイントラリーの電子申請導入や、市内各イベントや事業において普及啓発を行った。健診事業とは別に、東海大学との協働による巡回型健康測定事業により、正しい生活習慣の意識づけを行った。
	特定保健指導修了者割合の増加	26%	18.50%	12.80% (R4年度)	49.2%	△			
	特定保健指導対象者割合の減少	8.50%	9.80%	9.70% (R4年度)	114.1%	◎			

表中の網掛けは目標達成率100%以上の項目
 ※1 ＜達成率の算出方法＞ 現状値÷目標値（%）

指標評価基準一覧

評価区分	達成度	評価内容
◎	目標達成	目標値に達している
○	改善	目標値に達していないが、基準年の値より改善している
△	未達成	基準年の値と変わらないまたは低下している
—	評価できない	数値等が出ておらず評価できない

全体評価基準一覧

評価区分	評価内容
A	推進できた
B	概ね推進できた
C	推進できたが努力が必要
D	推進できなかった
E	事業の見直しや改善が必要